

09. 成育社会医学研究部

部長：平成27年度 藤原武男 平成28年度 不在

室長：加藤承彦 森崎菜穂

【ミッション・目標】

胎児期から幼少期における幅広い環境が与える子どもの健康や発達への影響について因果関係を明らかにし、得られたエビデンスに基づき効果的な予防政策を打ち出すこと。また、成育医療における臨床研究を疫学・統計的側面からサポートし推進すること。

【研究プロジェクト】

[子ども虐待の予防に関する研究]

- 揺さぶられ症候群の予防に関する研究
- 家庭訪問によるハイリスク家庭の虐待予防に関する研究
- 虐待による頭部外傷のコストに関する研究
- 母親の発達障害傾向と児への虐待傾向に関する研究

[虐待の世代間連鎖のメカニズムに関する研究]

- 虐待の世代間連鎖に関する研究
- オキシトシンと養育行動および子どもの発達に関する研究
- 被虐待児の健康に関する研究
- 親子関係に関する脳科学的研究
- 虐待の世代間連鎖の媒介要因に関する研究

[被災地における子どものこころの健康に関する研究]

- 被災地における子どものこころの問題の実態に関する縦断研究
- 被災地における子どものこころの問題の把握に関する研究

[子ども時代の社会的要因が与える健康影響に関する研究]

- 社会格差とこどもの健康に関する研究
- 発達障害の社会的要因に関する研究
- ソーシャルキャピタルとこどもの健康に関する研究
- 子ども時代の社会経済的地位と健康に関するライフコース疫学研究
- 父親の育児参加とこどもの健康に関する研究
- ワークライフバランスとこどもの健康に関する研究

[妊娠中および乳幼児期における栄養や微量元素と健康に関する出生コホート研究]

- 妊娠中の食事摂取の評価手法に関する研究
- 3歳時の食事摂取と子どもの発育に関する研究
- 母乳栄養と子どもの健康に関する研究

[日本における低出生体重児の要因・対策および予後に関する研究]

- 低出生体重児増加の要因分析
- 日本人にとっての適切な妊娠中体重増加量の算出
- 低出生体重児増加が小児期・成人期の長期予後に与えている影響の解析

[東京都足立区との連携による子どもの健康・生活の実態に関する研究]

- 世帯の経済状況が与える子どもの健康・生活への影響に関する研究
- 非生活困難世帯と生活困難世帯との比較
- 保護者に相談相手がいることによる、経済状況の影響の緩和に関する分析
- 区立保育園での食事・栄養調査を実施

[親子の距離感および妊娠期から虐待・DVを予防する支援システムの確立に関する研究]

- 親子の適切な心理的および物理的な距離の測定
- 妊娠期から虐待・DVを予防する支援システムの確立
- 保健師への動機付け面接教育介入研究の予備調査

[子育て環境と子どもの健康と発達に関する研究]

- 母乳育児が子どもの発達と健康に与える影響
- 母親の出生年齢の上昇が子どもの健康に与える影響
- 母親の乳児期の子どもへの関わりが子どもの発達に与える影響

[子どもを産みやすい社会環境に関する研究]

- 父親の育児参加が第二子・第三子の出生に与える影響
- 男女の役割分担意識と出生意欲の関係

[成育医療研究センター病院との共同研究]

- 出生コホートにおける不妊治療と児の発達予後に関する研究
- 乳児消化管アレルギーの全国調査データを用いた、疾患分類表および予後予測因子の解析
- 若年妊娠、高齢妊娠と妊娠予後との関連分析

【研究体制】

部長：藤原武男(平成28年3月まで)

室長：加藤承彦(行動科学研究室)、森崎菜穂(ライフコース疫学研究室)

研究員：越智真奈美、三瓶舞紀子、大久保裕輔(平成28年12月から)

共同研究員：大澤万伊子、駒崎裕子、左勝則、小川浩平、鈴木朋、相田潤、山中龍宏、三浦彩乃、三木崇弘、山岡祐衣、馬場幸子、本多由紀子、奥園桜子、谷友香子、雨宮愛理、佐田みずき、伊角彩、三村国雄、土井理美、小林実夏、可知悠子、中野弘美、安達絵美、森田彩子、村上洋子、安藤恵美子、山本依志子

研究補助者：関口倫子、平本有里

【国際共同研究】

1. The International Network for Evaluation of Outcomes (iNeo):新生児医療ネットワーク10カ国の共同研究：新生児医療の質と新生児の予後との関連分析研究
2. Preterm Birth International Collaborative (PREBIC) (日米欧加豪30カ国の周産期疫学者グループ)：人口動態統計を用いた、周産期予後の要因に関する国際比較研究
3. World Health Organization：2011-2012年に日本を含む21カ国にて行った出生調査情報の二次解析
4. Harvard School of Public Health (Prof. S V Subramanian)：成人期身長の幼少期の環境要因の指標としての使用に関する研究

【国内共同研究】

1. 東京大学医学系研究科(佐々木敏教授)、東邦大学社会医学講座衛生学分野(朝倉敬子准教授)：質問票を用いた子どもの栄養摂取量測定手法に関する研究
2. 京都大学医学系研究科(中山健夫教授)：周産期予後の母体および地域要因に関する研究
3. 筑波大学医学系研究科(田宮菜奈子教授)：乳児死亡の生物学的因子および社会因子に関する研究
4. 東京医科歯科大学医学部(藤原武男教授)：東京都足立区における子どもの健康と生活実態調査に関する研究
5. その他、共同研究員との国内共同研究

【研究の概要】

【子ども虐待の予防に関する研究】

- 日本の母子保健行政にのせる形で揺さぶられ症候群の予防政策を展開し、その効果を

実証した (Fujiwara, Public Health, 2015)。

- 乳児の虐待である揺さぶりおよび口塞ぎについて、住環境も含めた新たなリスク要因を明らかにした (Fujiwara et al., Journal of Epidemiology, 2015)。
- 産後うつが 4 ヶ月時の乳児の事故のリスク要因であることを人口ベースの調査で明らかにした (Yamaoka, Fujiwara, Tamiya, Maternal & Child Health Journal, 2015)。
- 妊娠中の DV 被害が乳児期の虐待に関連していることを明らかにした (Amemiya & Fujiwara, Child Abuse Negl, 2016)。
- ソーシャルキャピタルが乳児への身体的虐待を予防する可能性を示唆した (Fujiwara et al., Int J Ment Health System, 2016)。
- 日本で初めて乳児虐待 (shaking, smothering) の発生率を示した (Fujiwara et al., J Epidemio, 2016)。

[虐待の世代間連鎖のメカニズムに関する研究]

- 母子寮での調査により、母親の被虐待経験が、6 歳未満の子どもの愛着の発達に直接関係していることを明らかにした (Mizuki et al., Paediatrics and Health, 2015)。
- 子育て中の健康な親において、それほど深刻ではない被虐待体験がある場合、唾液中のオキシトシン濃度が高いことを示した (Mizuki et al., Frontiers in Behavioral Neuroscience, 2015)。
- ハイリスク妊婦に対する保健師による家庭訪問の効果について傾向スコア法により検討し、早産の予防効果が認められた (Ichikawa & Fujiwara, PLoS One, 2015)。
- 乳児虐待は、親の幼少期の逆境体験の有無に関わらず起こりうることを示した (Isumi & Fujiwara, Child Abuse Negl, 2016)。
- 母親が妊娠中に暴力を受けることが、4 ヶ月児への虐待と関連していることを示した (Amemiya & Fujiwara, Child abuse & neglect, 2016)。

[被災地における子どものこころの健康に関する研究]

- 被災地において、子どもの PTSD 症状が動画による刺激における表情の変化と関連していることを明らかにした (Fujiwara et al., Frontiers in Psychology, 2015)。

[子ども時代の社会的要因が与える健康影響に関する研究]

- 子どもの呼吸器疾患の罹患が親の禁煙を促すか、について検討し、関連がないことを明らかにした。 (Tabuchi & Fujiwara, Preventive Medicine, 2015)。
- 21 世紀出生児縦断調査を用いて、日本においてリーマンショック後の世帯年収がどのように子どもの肥満及びやせの影響を与えているか明らかにした (Ueda et al., International Journal of Obesity, 2015)。
- 母親および父親の社会的かかわりが子どもの思いやり等でみられる向社会性の醸成に

役立っている可能性を示した(Ochi & Fujiwra, Int J Behav Med, 2015)。

- ワークホリズムの父親の子どもは、1年後にBMIが高くなる傾向にあることを明らかにした(Fujiwara et al., Front Public Health, 2016)。
- 水痘ワクチンについて、補助金の助成によって年収が低い世帯でも接種率が高まることを明らかにした(Nagaoka & Fujiwara, Front Pediatr, 2016)。

[妊娠中および乳幼児期における栄養や微量元素と健康に関する出生コホート研究]

- 妊娠中のヘモグロビン減少が少ないほど低出生体重で生まれるリスクが高いことを明らかにした(Jwa et al, BMC Pregnancy and Childbirth, 2015)。
- 成育における母子コホート研究において、妊娠初期および中期における食事摂取状況について、食事頻度調査の妥当性を検討すべく採血および食事記録との関連を調べた。妊娠初期における食事記録からの栄養計算が終わり、食事頻度調査および採血データとの関連について解析した (Jwa & Morisaki, J Nutrition Sciences, 2016, Ogawa & Morisaki, J Epidemiology, 2017, Kobayashi & Morisaki, J Epidemiology, 2017)。
- 母子コホートにおいて、妊娠中の栄養摂取と母の産後うつ、児の出生時体格および2歳時の喘息症状の関係を報告 (投稿中)。また、妊婦のパーソナリティと妊娠予後との関係を報告(Morisaki et al, PLoS ONE, 2015)。
- 母子コホートにおいて、3歳児の栄養状況について食事頻度調査票を用いて評価し、その妥当性を検証に関する研究を行った。(投稿準備中)

[日本における低出生体重児の要因・対策および予後に関する研究]

- 米国人人口動態統計を用いて、日本人の出生体重が全米で一番小さく(Morisaki et al, Scientific Reports, 2017)、その要因は主に妊婦の体格および妊娠中の体重増加量が少ないためだと報告(Morisaki et al, Paed Peri Epi, 2016)
- 日本産婦人科学会周産期登録データベースを用いて日本人にとっての適切な妊娠中体重増加量の算出(Morisaki et al, J Epidemiology, 2017)
- 低身長が妊娠高血圧症候群のリスクを増大させることを報告(Morisaki et al, Paed Peri Epi, 2017)
- 身長が低い妊婦の早産率が高い要因は、妊娠高血圧症候群増大により媒介されることを報告(投稿中)
- 低出生体重児増加が小児期・成人期の長期予後に与えている影響の解析(投稿中)

[東京都足立区との連携による子どもの健康・生活の実態に関する研究]

- 留守番と子どものメンタルヘルスとの関係についての研究 (投稿中)
- 家での料理の頻度と子どもの肥満との関係についての研究 (投稿中)
- 母親のメンタルヘルスと子どもの生活習慣との関係について (投稿準備中)

- 研究実施の手順に関する説明（投稿準備中）

[親子の距離感および妊娠期から虐待・DVを予防する支援システムの確立に関する研究]

- 11組の親子の心理的距離感および物理的な距離を産業技術総合研究所のリビングラボを用いて測定した
- 動機づけ面接などのコンテンツを盛り込んだ保健師支援アプリを現在作成中

[子育て環境と子どもの健康と発達に関する研究]

- 母乳育児と子どものむし歯との関係について検証した (Kato et al., BMJ Open, 2015)
- 母親の乳児期の子どもへの積極的な関わりと小学校5年生時の学校生活への不適合との間に関連が見られた (Kato et al., Child: Care Health Dev, 2016)
- 母親の出生年齢が高いほうが子どもの入院アウトカムには保護的であった (Kato et al., PLoS One, 2017)

[子どもを産みやすい社会環境に関する研究]

- 父親の育児参加が第二子・第三子の出生を促す傾向を明らかにした（現在投稿中）
- 男女の役割分担意識と出生意欲との関係を明らかにした（現在投稿中）

[成育医療研究センター病院との共同研究]

- 子どものメンタルヘルスや問題行動の有病率およびそれに対する地域ベースの家族介入方法についてまとめた (Kato et al., Journal of Epidemiology, 2015)。
- 新生児蘇生のガイドライン変更後に、気胸が増え、それがC P A Pの影響による可能性が高いことを明らかにした (Hishikawa et al., Archives of Disease in Childhood, 2015)。
- 出生コホートにおける不妊治療と児の発達予後に関する研究の解析に関する助言 (Aoki et al, Brain Dev 2016)
- 2010年の新生児呼吸器管理方法の改訂によって、どの程度新生児の呼吸状態が改善したか明らかにした (Hishikawa et al., Neonatology, 2016)。
- 乳児消化管アレルギーの全国調査データを用いた、疾患分類表および予後予測因子の解析手法の提案（投稿準備中）
- 若年妊娠、高齢妊娠と妊娠予後との関連分析の解析に関する助言 (投稿準備中)

[国際共同研究]

- The International Network for Evaluation of Outcomes (iNeo):新生児医療ネットワーク10カ国の共同研究：新生児医療の質と新生児の予後との関連分析 (Martin LJ et al, Paed Peri Epi, 2016; Hines et al, Acta Paediatrica 2017)

- Preterm Birth International Collaborative (PREBIC) (日米欧加豪 30 カ国の周産期疫学者グループ) : 人口動態統計を用いた、周産期予後の要因に関する国際比較研究 (Richards, Morisaki et al, JAMA 2016, Delnord, Morisaki et al, Brit J Obst Gyn 2017; Morisaki et al, Brit J Obst Gyn 2017)
- WHO secondary analysis group : Vogel J, Morisaki P et al, Lancet Global Health, 2015; Ye J, Morisaki et al, BMC Preg Child 2015; Souza, Morisaki et al, Brit J Obst Gyn, 2016; Ganchimeg T, Morisaki et al, PLoS One 2016; Morisaki et al, Brit J Obst Gyn, 2017, Morisaki et al, BMJ Global Health 2017)
- Harvard School of Public Health (Prof. S V Subramanian) : 成人期身長の幼少期の環境要因の指標としての使用に関する研究 (投稿中)

[国内共同研究]

- 大規模な高齢者研究から出生月と死亡率との関連について明らかにした (Inoue et al., Chronobiology, 2016)。

【平成 27 年研究業績】

1. 誌上発表

[原著論文]

1. Kato T*, Yorifuji T, Yamakawa M, Inoue S, Saito K, Doi H, Kawachi I : Association of breast feeding with early childhood dental caries: Japanese population-based study. *BMJ Open* 2015 Mar; 20:5(3):e006982. (IF 2.6)
2. Dagvadorj A, Takehara K, Bavuusuren B, Morisaki N, Gochoo S, Mori R* : The quick and easy Mongolian Rapid Baby Scale shows good concurrent validity and sensitivity. *Acta Paediatrica* 2015 Mar;104(3):e94-9 (IF 1.7)
3. Parajuli RP*, Fujiwara T, Umezaki M, Watanabe C : Association of Cord Blood Levels of Lead, Arsenic, and Zinc and Home Environment with Children Neurodevelopment at 36 Months Living in Chitwan Valley, Nepal. *PLoS One* 2015 Mar 24;10(3):e0120992 (IF3.1)
4. Mizuki R, Fujiwara T*, Okuyama M : Maternal childhood abused history, mental health, and parenting on development of attachment less than 6 years old. *Paediatrics and Health* 2015. <http://dx.doi.org/10.7243/2052-935X-3-3>
5. Tabuchi T*, Fujiwara T: Are secondhand smoke-related diseases of children associated with parental smoking cessation? Determinants of parental smoking cessation in a population-based cohort study. *Preventive Medicine* 2015 Apr; 73:81-7. (IF2015=2.9)
6. Jwa SC, Fujiwara T*, Yamanobe Y, Kozuka K, Sago H : Changes in maternal hemoglobin during pregnancy and birth outcomes. *BMC Pregnancy and Childbirth* 2015 Apr 2;15:80. (IF2015=2.2)
7. Vogel JP*, Betrán AP, Vindevoghel N, Souza JP, Torloni MR, Zhang J, Tunçalp Ö, Mori R, Morisaki N, Ortiz-Panoso E, Hernandez B, Pérez-Cuevas R, Qureshi Z, Gülmezoglu AM, Temmerman M : WHO Multi-Country Survey on Maternal and Newborn Health Research Network: Use of the Robson classification to assess caesarean section trends in 21 countries: a secondary analysis of two WHO multicountry surveys. *Lancet Global Health* 2015 May;3(5): e260-70 (IF2015=14.7)
8. Fujiwara T*: Effectiveness of public health practice against shaken baby syndrome/abusive head trauma in Japan. *Public Health* 2015 May;129(5):475-82 (IF2015=1.57)
9. Ito J, Fujiwara T*, Kojima R, Nomura I : Racial differences in eosinophilic gastrointestinal disorders among Caucasian and Asian. *Allergology International* 2015 Jul;64(3):253-9 (IF2015=2.4)

10. Mizuki R, Fujiwara T* : Association of oxytocin level and less severe forms of childhood maltreatment history among healthy Japanese adults involved with child care. *Frontiers in Behavioral Neuroscience* 2015 Jun 23;9:138 (IF2015=3.39)
11. Ueda P*, Kondo N, Fujiwara T : The global economic crisis, household income and pre-adolescent overweight and underweight: a nationwide birth cohort study in Japan. *International Journal of Obesity* 2015 Sep;39(9):1414-20 (IF2015=5.3)
12. Ichikawa K, Fujiwara T*, Nakayama T: Effectiveness of home visits in pregnancy as a public health measure to improve birth outcomes. *PLoS One* Sep 8;10(9):e0137307. (IF2015=3.06)
13. Hishikawa K*, Goishi K, Fujiwara T, Kaneshige M, Ito Y, Sago H : Pulmonary air leak associated with CPAP at term birth resuscitation. *Archives of Disease in Childhood Fetal and Neonatal Edition*. 2015 Sep;100(5):F382-7. (IF2015=3.97)
14. Fujiwara T*, Mizuki R, Miki T, and Chemtob C : Association between facial expression and PTSD symptoms among young children exposed to the Great East Japan Earthquake: A pilot study. *Frontiers in Psychology* 2015 Oct 13;6:1534. (IF2015=2.5)
15. Ye J, Torloni MR, Ota E, Jayaratne K, Pileggi-Castro C, Ortiz-Panozo E, Lumbiganon P, Morisaki N, Laopaiboon M, Mori R, Tunçalp Ö, Fang F, Yu H, Souza JP, Vogel JP, Zhang J* : Searching for the definition of macrosomia through an outcome-based approach in low- and middle-income countries: a secondary analysis of the WHO Global Survey in Africa, Asia and Latin America. *BMC Pregnancy Childbirth* 2015 Dec; 3:15(1):324 (IF2015=2.2)
16. Yorifuji T*, Kato T, Ohta H, Bellinger D, Matsuoka K, and Grandjean P : Neurological and neuropsychological functions in adults with a history of developmental arsenic poisoning from contaminated milk powder. *Neurotoxicology and Teratology* 2016 Jan-Feb;53:75-80. (IF 2.5)
17. Fujiwara T*, Yamaoka Y, Morisaki N. Self-Reported Prevalence and Risk Factors for Shaking and Smothering Among Mothers of 4-Month-Old Infants in Japan. *J Epidemiol* 2016 Jan 5;26(1):4-13. (IF2.5)
18. Yamaoka Y, Fujiwara T*, Tamiya N : Association between maternal postpartum depression and unintentional injury among 4-month-old infants in Japan. *Maternal Child Health Journal* 2016 Feb;20(2):326-36. (IF2015=1.9)
19. Souza JP*, Betran AP, Dumont A, de Mucio B, Gibbs Pickens CM, Deneux-Tharaux C, Ortiz-Panozo E, Sullivan E, Ota E, Togoobaatar G, Carroli G, Knight H, Zhang J, Cecatti JG, Vogel JP2, Jayaratne K, Leal MC, Gissler M, Morisaki N, Lack N, Oladapo OT, Tunçalp Ö, Lumbiganon P, Mori R, Quintana S, Costa Passos AD, Marcolin AC, Zongo A, Blondel B, Hernández B23, Hogue CJ, Prunet C, Landman C, Ochir C, Cuesta C, Pileggi-Castro C, Walker D, Alves D, Abalos E, Moises E, Vieira EM, Duarte G, Perdona G, Gurol-Urganci I, Takahiko K, Moscovici L, Campodonico L, Oliveira-Ciabati L, Laopaiboon M, Danansuriya M, Nakamura-Pereira M, Costa ML, Torloni MR, Kramer MR, Borges P, Olkhanud PB, Pérez-

- Cuevas R, Agampodi SB, Mittal S, Serruya S, Bataglia V, Li , Temmerman , Gülmezoglu AM : A global reference for caesarean section rates (C-Model): a multicountry cross-sectional study. BJOG: an international journal of obstetrics and gynaecology 2016; Feb 123(3):427-36 (IF=4.1)
20. Ganchimeg T, Nagata C*, Vogel JP, Morisaki N, Pileggi-Castro C, Ortiz-Panozo E, Jayaratne K, Mittal S, Ota E, Souza JP, Mori R : WHO Multicountry Survey on Maternal and Newborn Health Research Network. Optimal Timing of Delivery among Low-Risk Women with Prior Caesarean Section: A Secondary Analysis of the WHO Multicountry Survey on Maternal and Newborn Health. PLoS One 2016 Feb 11;11(2):e0149091 (IF 3.1)
21. Inoue S*, Naruse H, Yorifuji T, Kato T, Doi H, Subramanian SV: Association between maternal height and LBW/NICU admission: A hospital-based study in Japan. Journal of Korean Medical Science 2016 Mar;31(3):353-9. (IF 1.3)

[総説]

1. Kato N*, Yanagawa T, Fujiwara T, Morawska A : Prevalence of children's mental health problems and population-level family intervention. Journal of Epidemiology 2015; 25(8): 507-516.

[学会発表]

1. Ochi M, Fujiwara T : The impacts of early paternal involvement of childcare on later child behavioral problems. EUROPEAN CONGRESS OF EPIDEMIOLOGY - HEALTHY LIVING, Maastricht, the Netherlands, June 26 2015
2. Honda Y, Fujiwara T : Cost of maternal isolation for child-rearing: A large population-based study in Japan. EUROPEAN CONGRESS OF EPIDEMIOLOGY - HEALTHY LIVING, Maastricht, the Netherlands, June 26 2015
3. Tabuchi T, Fujiwara T, Nakayama T, Miyahoshi I, Tsukuma H, Ozaki K, Kondo N : Maternal and paternal indoor or outdoor smoking and the risk of asthma in their children. EUROPEAN CONGRESS OF EPIDEMIOLOGY - HEALTHY LIVING, Maastricht, the Netherlands, June 26-27 2015
4. Miki T, Fujiwara T : Impact of parenting style on clinically significant behavior problems after Great East Japan Earthquake: a follow-up study. EUROPEAN CONGRESS OF EPIDEMIOLOGY - HEALTHY LIVING, Maastricht, the Netherlands, June 26 2015
5. Fujiwara T : Interaction of unexpected pregnancy and young motherhood predict infant abuse: A prospective study in Japan. EUROPEAN CONGRESS OF EPIDEMIOLOGY - HEALTHY LIVING, Maastricht, the Netherlands, June 25-27 2015
6. Fujiwara T, Tani Y, Ashida T, Kondo N, Kondo K : Association of childhood abuse history and dementia: Results from JAGES study. EUROPEAN CONGRESS OF EPIDEMIOLOGY -

HEALTHY LIVING, Maastricht, the Netherlands, June 25-27 2015

7. Fujiwara T : Suicide risk among young children after the Great East Japan Earthquake. Symposium 14, Frontline of mental health epidemiology. WPA Regional Congress, Osaka, Japan, June 4-6, 2015 (Oral presentation)
8. Fujiwara T : Does workplace social capital enhance paternal involvement in childcare? Seoul and Jeju, Korea, June 1-2, 2015 (Oral Presentation)
9. Fujiwara T : Social capital, physical environment, and biomarkers: Results from JAGES study. The 7th International Symposium for Social Capital. Seoul and Jeju, Korea, June 1-2, 2015 (Oral Presentation)
10. Shobugawa Y, Fujiwara T, Kondo K, Saito R : Association between social participation and influenza infection: a cross sectional study in Japanese older people. EUROPEAN CONGRESS OF EPIDEMIOLOGY - HEALTHY LIVING, Maastricht, the Netherlands, June 25-27, 2015
11. Kato T : Poverty as a major obstacle to children's learning. MidSouth Reading & Writing Institute, AL, USA, June 19 2015
12. Fujiwara T, Tani Y, Ashida T, Kondo N, Kondo K : Association of childhood abuse history and mild cognitive impairment: Results from JAGES study. 8th Europe Public Health Conference, Milan Italy, Oct 14-17 2015 (Poster presentation)
13. Nagamine-Takahashi Y, Fujiwara T, Tani Y, Tabuchi T, Kondo N, Kondo K : The mobility of subjective socioeconomic status and mortality in Japan-JAGES cohort study. 8th Europe Public Health Conference, Milan Italy, Oct 14-17 2015. (Oral presentation)
14. Ashida T, Fujiwara T, Kondo N, Kondo K : Childhood SES and social integration among older people in Japan. 8th Europe Public Health Conference, Milan Italy, Oct 14-17 2015. (Oral presentation)
15. Yanagi N, Fujiwara T, Hata A, Kondo K : Association between childhood socioeconomic status and vegetables consumption in old age in Japan. 8th Europe Public Health Conference, Milan Italy, Oct 14-17 2015. (Oral presentation)
16. Morisaki N : Maternal diet with low protein density increases risk of low birth weight birth in Japanese. 3rd International Conference on Nutrition and Growth, Vienna, March 19 2016 (oral)

[招待講演・教育講演・シンポジウム]

1. 森崎菜穂:日米データから算出する日本人の適切な妊娠中の食生活と体重増加量.公益財団法人 神澤医学研究振興財団 第17回講演会, 2015年5月29日,東京.
2. 森崎菜穂 : Difference in survival rates of very low birth weight infants inside and outside the NRN network . 9th Database Quality Improvement Conference, 秋葉原 UDX ギャラリー NEXT-2, 2015年9月12日
3. 加藤承彦:子どもを取り巻く社会の現状を知る.社会福祉法人ちとせ校友会職員研修会,

東京.

4. 三瓶舞紀子.加濃正人(共同講師)：平成 27 年度「依存症関連相談技術研修会」栃木県精神保健福祉センター「依存症相談に役立つ動機づけ面接法」, 2015 年 10 月 15 日, 29 日, 栃木県.
5. 三瓶舞紀子. 宮本有紀(共同講師)：各務原市消防協会主催の「サイコロジカル・ファーストエイド」研修会, 2015 年 11 月 8 日, 岐阜県.
6. 三瓶舞紀子. 金 吉晴(共同講師)：広島市精神保健福祉センター「被災者を支えるために～サイコロジカル・ファーストエイドについて～」, 2015 年 12 月 18 日, 広島県.

【研究費】

公的研究費

厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 H27-健やか-一般-001）、研究分担者 藤原武男（班全体 10,000 千円「含、間接経費」）「妊婦健康診査および妊娠届を活用したハイリスク妊産婦の把握と効果的な保健指導のあり方に関する研究」

厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 H24-次世代-指定-007 復興）、研究分担者 藤原武男（班全体 50,000 千円「含、間接経費」）「東日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究子どもの発育状況に関する研究」

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業 H27-循環器等-一般-002）、研究分担者 藤原武男（班全体 15,000 千円「含、間接経費」）「小中学生の食行動の社会格差是正に向けた政策提案型研究」

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金・挑戦的萌芽研究 挑戦萌芽-15K12735）、研究代表者 藤原武男（1,950 千円「含、間接経費」）「父親の育児参加で子どもの事故を防げるか：ランダム化比較試験」

科学研究費助成事業（科学研究費補助金 基盤研究（A）一般 基盤 A-15H01832）、研究分担者 藤原武男（260 千円）「ワーク・ライフ・バランスの向上を通じた労働者・夫婦・親子の健康支援に関する研究」

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）一般 基盤 C-15K09874）、研究分担者 藤原武男（101 千円）「愛着関連障害診断および被虐待乳幼児とその親のオキシトシン濃度についての研究」

科学研究費助成事業（基盤研究（B） 基盤 B-25305037）、研究分担者 藤原武男（26 千円）
「モンゴロイドにおける顎顔面形態の国際比較研究」

公益財団法人三菱財団助成金 研究代表者 藤原武男（3,000 千円）「父親の育児参加を促す介入による子どもの事故予防効果検証」

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金・若手研究 B- 26870889）、研究代表者 森崎菜穂（1,560 千円「含、間接経費」）「臨床データベースと政府統計データのリンケージによる周産期医療の評価に関する研究」

日本医療研究開発機構 成育疾患克服等総合研究事業 研究分担者 森崎菜穂（62,000 千円「間接経費」）「低出生体重児の発症機序及び長期予後の解明に関する研究」

公益財団法人神澤医学研究振興財団研究助成金 研究代表者 森崎菜穂（1,000 千円）「日米データから算出する日本人の適切な妊娠中の食生活と体重増加量」

上原記念生命科学財団研究奨励金 研究代表者 森崎菜穂（2,000 千円）「データリンケージによる周産期疫学研究の推進」

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金・若手研究 B- 26870404）、研究代表者 加藤承彦（1,430 千円「含、間接経費」）「親の社会階層と乳児-幼児期の子どもの健康と発達との関係」

【その他】

〔教育活動〕

藤原武男

- ・三重大学大学院医学系研究科環境社会医学講座成育社会医学分野連携教授
- ・三重大学医学部非常勤講師
- ・東京医科歯科大学歯学部非常勤講師
- ・岡山大学医学部非常勤講師
- ・東京大学医学部非常勤講師

〔社会貢献〕

藤原武男

- ・ Journal of Epidemiology 編集委員
- ・足立区地域保健福祉推進協議会健康あだち 2 1 専門部会副部長
- ・学術雑誌のレビュー多数。

加藤承彦

- ・国際学術誌 査読 2編

森崎菜穂

- ・国際学術誌 査読 10本以上
- ・日本小児科学学会 情報管理委員会委員
- ・日本小児科学学会 子どもの死亡検証委員会委員

[研究所運営への貢献]

藤原武男

- ・倫理委員会社会部会委員
- ・臨床疫学セミナー開催
- ・研究所情報システム部会委員
- ・実験動物委員会委員

加藤承彦

- ・臨床研究センターセミナー講師

【平成 28 年研究業績】

1. 誌上発表

[原著論文]

1. Aoki S, Hashimoto K, Ikeda N, Takekoh M, Fujiwara T, Morisaki N, Mezawa H, Tachibana Y, Ohya Y* : Comparison of the Kyoto Scale of Psychological Development 2001 with the parent-rated Kinder Infant Development Scale (KIDS). *Brain and Development* 2016 May;38(5):481-90. (IF 1.8)
2. Amemiya A, Fujiwara T*: Association between maternal intimate partner violence victimization during pregnancy and maternal abusive behavior towards infants at 4 months of age in Japan. *Child Abuse & Neglect* 2016 May;55:32-9 (IF 2.4)
3. Morisaki N, Fujiwara T*, Horikawa R: The impact of parental personality on birth outcomes: a prospective cohort study. *PLoS One* 2016 Jun 22;11(6):e0157080.
4. Isumi A*, Fujiwara T : Association of Adverse Childhood Experiences with Shaking and Smothering Behaviors among Japanese Caregivers. *Child Abuse & Neglect* 2016 July;57:12-20. (IF 2.4)
5. Jwa SC, Ogawa K, Kobayashi M, Morisaki N, Sago H, Fujiwara T*: Validation of a food-frequency questionnaire for assessing vitamin intake of Japanese women in early and late pregnancy with and without nausea and vomiting. *Journal of Nutritional Science* 2016 July 7;5:e27.
6. Richards JL*, Kramer MS, Deb-Rinker P, Rouleau J, Mortensen L, Gissler M, Morken NH, Skjærven R, Cnattingius S, Johansson S, Delnord M, Dolan SM, Morisaki N, Tough S, Zeitlin J, Kramer MR: Temporal Trends in Late Preterm and Early Term Birth Rates in 6 High-Income Countries in North America and Europe and Association With Clinician-Initiated Obstetric Interventions. *JAMA* 2016 July 26;316(4):410-9 (IF 37.7)
7. Ochi M, Fujiwara T* : Association between parental social interaction and behavior problems in offspring: A population-based study in Japan. *International Journal of Behavioral Medicine* 2016 Aug;23(4):447-57 (IF 1.9)
8. Morisaki N*, Kawachi I, Oken E, Fujiwara T: Parental characteristics can explain why Japanese women give birth to the smallest infants in the United States. *Paediatric and Perinatal Epidemiology* Sep;30(5):473-8 (IF 3.1)
9. Martin LJ, Sjörs G, Reichman, Darlow BA, Morisaki N, Modi N, Bassler D, Mirea L, Adams M, Kusuda S, Lui K, Feliciano LS, Håkansson S, Isayama T, Mori R, Vento M, Lee SK, Shah PS*: Country-Specific vs Common Birthweight-for-Gestational Age References to Identify Small for Gestational Age Infants Born at 24–28 weeks: An International Study. *Paediatric and Perinatal*

- Epidemiology Sep;30(5):450-61 (IF 3.1)
10. Richards JL*, Kramer MS, Deb-Rinker P, Rouleau J, Mortensen L, Gissler M, Morken NH, Skjærven R, Cnattingius S, Johansson S, Delnord M, Dolan SM, Morisaki N, Tough S, Zeitlin J, Kramer MR. Temporal Trends in Late Preterm and Early Term Birth Rates in 6 High-Income Countries in North America and Europe and Association With Clinician-Initiated Obstetric Interventions. *Obstetrical and Gynecological Survey* 2016 Nov; 71(11):644-646 (IF 1.7)
 11. Inoue S*, Yorifuji T, Kato T, Sanada S, Doi H, and Kawachi I: Children's Media Use and Self-Regulation Behavior. *Maternal and Child Health Journal* 2016 Oct;20(10):2084-99 (IF 1.9)
 12. Kobayashi M, Jwa SC, Ogawa K, Morisaki N, Fujiwara T*: Validity of food frequency questionnaires to estimate long-chain polyunsaturated fatty acid intake among Japanese women in early and late pregnancy. *Journal of Epidemiology* 2017 Jan; 27(1): 30-35 (IF2.5)
 13. Okubo Y*, Nochioka K, Sakakibara H, Marcia T, Robert P Sundel: National survey of pediatric hospitalizations due to Kawasaki disease and coronary artery aneurysms in the USA. *Clinical Rheumatology* 2017 Feb;36(2):413-419. (IF 2.0)
 14. Hines D, Modi N, Lee SK, Isayama T, Sjörs G, Gagliardie L, Lehtonenf L, Ventog M, Kusuda S, Bassleri D, Mori R, Reichman B, Håkansson S, Darlow B, Adams M, Rusconi M, Feliciano LS, Lui K, Morisaki N, Musrap N, Shah PS*: Scoping review shows wide variation in the definitions of bronchopulmonary dysplasia in preterm infants and calls for a consensus. *Acta Paediatrica* 2017 Mar;106(3):366-374. (IF 1.6)
 15. Inoue S*, Yorifuji T, Hiroo N, Kato T, Murakoshi T, Doi H, and Subramanian SV: Impact of maternal and paternal smoking on birth outcomes. *Journal of Public Health* 2016 May 24. pii: fdw050. [Epub ahead of print] (IF 2.0)
 16. Delnord M*, Hindori-Mohangoo A, Smith L, Szamotulska K, Richards J, Deb-Rinker P, Rouleau J, Velebil P, Sile I, Sakkeus L, Gissler M, Morisaki N, Dolan S, Kramer MR, Kramer MS, Zeitlin J: Variations in very preterm births rates in 30 high-income countries: are valid international comparisons possible using routine data. *BJOG: an international journal of obstetrics and gynaecology* 2016 Sep 10. doi: 10.1111/1471-0528.14273. [Epub ahead of print] (IF 4.1)
 17. Kato T*, Fujiwara T, Kawachi I: Associations between mothers' active engagement with infants at 6 months and children's adjustment to school life at ages 5.5 and 11 years, *Child. Care, Health and Development*. 2016 Dec 19. doi: 10.1111/cch.12432. [Epub ahead of print] (IF 1.7)
 18. Morisaki N*, Ganchimeg T, Vogel J, Zeitlen J, Cecatti JG, Souza JP, Castro CP, Torloni MR, Ota E, Mori R, Dolan SM, Tough S, Mittal S, Bataglia V, Yadamsuren B, Kramer MS. Impact of stillbirths on international comparisons of preterm birth rates: A secondary analysis of the WHO multi-country survey of Maternal and Newborn Health. *BJOG: an international journal of obstetrics and gynaecology*. 2017 Feb 20. doi: 10.1111/1471-0528.14548 [Epub ahead of print] (IF 4.1)

19. Okubo Y*, Nochioka K, Marcia T : Nationwide survey of hospitalization due to pediatric food-induced anaphylaxis in the United States. *Pediatric Emergency Care* (in press) (IF 0.9)
20. Ogawa K, Kobayashi M, Jwa SC, Morisaki N, Fujiwara T*. Validation of a food frequency questionnaire for Japanese pregnant women with and without nausea and vomiting in early pregnancy. *Journal of Epidemiology* 2017 (in press) (IF 2.5)
21. Morisaki N*, Nagata C, Jwa SC, Sago H, Saito S, Oken E, Fujiwara T. Pre-pregnancy BMI specific optimal gestational weight gain for women in Japan. *Journal of Epidemiology* 2017 (in press) (IF 2.5)
22. Ogawa K, Morisaki N*, Sato S, Saito S, Fujiwara T, Sago H. Association of shorter height with increased risk of preeclampsia and its complications: a multicenter, retrospective cohort study. *Paediatric and Perinatal Epidemiology* 2017 (author 1&2 contributed equally) (in press) (IF 3.1)
23. Morisaki N*, Zhang X, Ganchimeg T, Vogel J, Zeitlen J, Souza JP, Cecatti JG, Torloni MR, Ota E, Mori R, Tough S, Dolan SM, Kramer MS. Provider-Initiated Delivery and Perinatal Outcomes: A Secondary Analysis of the WHO Multi-Country Survey on Maternal and Newborn Health. *BMJ Global Health* 2017. doi.org/10.1136/bmjgh-2016-000204 (in press)

[総説]

1. 森崎菜穂,山岡祐衣,溝口史剛 : チャイルド・デス・レビュー～日本での実現に向けて. *周産期医学* 2016;3:283-286
2. Fujiwara T, Morisaki N, Honda Y, Sampei M, Tani Y: Chemicals, Nutrition, and Autism Spectrum Disorder: A Mini-Review. *Front Neurosci* 2016 Apr 20;10:174
3. 三瓶舞紀子, 藤原武男:医療における音楽療法はここまで来た、喘息・アレルギー疾患と音楽療法 *成人病と生活習慣病* 2016;46:2:261-264.
4. 森崎菜穂, 永田知映, 左合治彦, 齋藤滋: 日本人にとっての適切な妊娠中体重増加量の算出. *産婦人科の実際* (in print)
5. 森崎菜穂: 日本における出生体重低下の要因と対策を考える : 複数のデータベース解析からのエビデンス. *日本周産期・新生児医学雑誌* 第52巻5号 (in print)

[学会発表]

1. Kato T, Yorifuji T, Ohta H, Bellinger D, Matsuoka K, Grandjean P: Neuropsychological functions in adults with a history of developmental arsenic exposure from contaminated milk powder. *International Society for Environmental Epidemiology and International Society of Exposure Science*, 札幌, 2016年6月29日
2. Morisaki N, Kawachi I, Oken E, Fujiwara T: Parental characteristics can explain why Japanese women give birth to the smallest infants in the United States. *Society of Paediatric and Perinatal Epidemiology Research*, Florida, 2016.6.21

3. Ochi M : ASSOCIATION BETWEEN PARENTAL SOCIAL INTERACTION AND BEHAVIOR PROBLEMS IN OFFSPRING: A POPULATION-BASED STUDY IN JAPAN. Epidemiology congress of the Americas 2016, Florida, 2016,Jun,21
4. Sampei M, Fujiwara T : The impact of fertility treatment on mother-infant bonding impairment at 4 month postpartum: A Japanese population based study. the 29th Annual Meeting of the Society for Pediatric and Perinatal Epidemiologic Research (SPER), Miami, June 20, 2016
5. Isumi A, Fujiwara T : Shaken Baby Syndrome and Social Capital: A Multilevel Analysis of Caregivers of Infants in Japan. 29th Annual Meeting of the Society for Pediatric and Perinatal Epidemiologic Research, Miami, June 21 2016
6. Isumi A, Fujiwara T : Association of Adverse Childhood Experiences with Shaking and Smothering Behaviors among Japanese Caregivers. 2016 Epidemiology Congress of the Americas, Miami, June 22 2016
7. Amemiya A, Fujiwara T : Association of Adverse Childhood Experiences with Functional Limitations among Japanese Older People. 2016 Epidemiology Congress of the Americas meeting, Miami, June 23, 2016
8. Amemiya A, Fujiwara T: The association between community social capital and diabetes among older people: the Results From the JAGES 2010 Project, the 48th Conference of the Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health, Tokyo, September 18 2016
9. Amemiya A, Fujiwara T: Adverse Childhood Experiences and Functional Limitations Among Japanese Older People: Results From the JAGES 2013 Project, the 48th Conference of the Asia-Pacific Academic Consortium for Public HealthTokyo, September 18 2016
10. Sampei M, Fujiwara T: “Fertility treatment, mother-infant bonding impairment, and shaking: A Japanese population based study,”Fifteenth International Conference on Shaken Baby Syndrome. 2016 Fifteenth International Conference on Shaken Baby Syndrome/Abusive Head Trauma, Montreal, Quebec, September 27 2016
11. Isumi A, Fujiwara T : Association of Positive Parenting Practice with Shaking and Smothering among Caregivers of Infants in Japan. XXIst ISPCAN International Congress on Child Abuse and Neglect, Calgary, August 29-30 2016
12. Amemiya A, Fujiwara T : Impact of low household income on lung function among school-aged children in Japan. The European Journal of Public Health, Wien, 2016.11.12
13. Morisaki N : SHRINKING HEIGHT IN CHILDREN DUE TO REDUCED FETAL GROWTH: FINDINGS FROM A SERIAL NATIONAL CROSS-SECTIONAL STUDY IN JAPAN (1990-2010). 4th International Conference on Nutrition and Growth, Amsterdam, March 4 2017 (oral)

[招待講演・教育講演・シンポジウム]

1. 森崎菜穂、永田知映 : 教育セミナー.周産期の臨床研究・疫学研究を行なうためのノウ

- ハウ. 第 52 回日本周産期・新生児医学会学術集会,2016 年 7 月 18 日
2. 森崎菜穂: シンポジウム 12. 日本における出生体重低下の要因と対策を考える: 複数のデータベース解析からのエビデンス. 第 52 回日本周産期・新生児医学会学術集会,2016 年 7 月 17 日.
 3. 森崎菜穂. 教育セミナー. 周産期疫学研究のノウハウ. EZRを用いたコホートデータ解析の実践. 筑波大学医学部小児科 (2017年1月21日)
 4. 森崎菜穂. シンポジウム. 子どもの死亡を検証し、予防可能な死亡を減らすために。現時点で稼働している新生児の死亡登録制度: シンポジウム『防げる死から子どもを守るために～虐待死の検証からすべての子どもの死の検証へ～』フクラシア東京ステージオン (2017年1月29日)
 5. 加藤承彦:子どもを取り巻く社会の現状を知る.社会福祉法人ちとせ校友会職員研修会, 東京.
 6. 加藤承彦:社会疫学からみた乳幼児発達.東京大学発達保育実践政策学センター第 14 回発達保育実践政策学セミナー,東京.
 7. 加藤承彦:子どもの発達と環境.福山市立大学第 5 回発達支援セミナー,広島.
 8. 三瓶舞紀子.加濃正人(共同講師): 神奈川県第 3 回卒煙サポートセミナー 卒煙相談の実際 ～「動機づけ面接法」を中心に～. 2016 年 2 月 4 日, 神奈川県.
 9. 三瓶舞紀子: 千葉県鎌ケ谷市母子保健担当者研修 知っているようでいて知らないうまく話を聞く方法 ～動機づけ面接を使った妊婦面接～. 2016 年 2 月 25 日, 千葉県.
 10. 三瓶舞紀子: 千葉県鎌ケ谷市母子保健担当者研修 知っているようでいて知らないうまく話を聞く方法 ～動機づけ面接を使った妊婦面接～. 2016 年 2 月 29 日, 千葉県.
 11. 三瓶舞紀子.加濃正人(共同講師): 栃木県平成 27 年度家庭裁判所調査官研究会「動機づけ面接の基本」. 2016 年 3 月 10 日, 栃木県.
 12. 三瓶舞紀子: 児童虐待対応体制整備研修会、支援を拒否する方への関わり方の基本を学ぶ. 2016 年 3 月 16 日, 愛知県.
 13. 三瓶舞紀子: 千葉県母子保健担当者研修 妊娠期からの虐待予防「特定妊婦への関わりと支援について」 part 1 2016 年 10 月 18 日, 千葉県(鎌ケ谷市).
 14. 三瓶舞紀子: 千葉県母子保健担当者研修 妊娠期からの虐待予防「特定妊婦への関わりと支援について」 part 2 2016 年 11 月 1 日, 千葉県(鎌ケ谷市).
 15. 三瓶舞紀子.加濃正人(共同講師): 平成 28 年度千葉県特定健診・特定保健指導、実践者スキルアップ研修会 (保健指導実技コース)「動機づけ面接法」～禁煙支援スキルとして～. 2016 年 11 月 17 日, 千葉県(千葉市).
 16. 三瓶舞紀子: 平成 28 年度保健指導者講習会「相談指導に効果的な面接手法(動機付け面接を学ぼう)」 2016 年 11 月 18 日, 千葉県(勝浦市).

[招待原稿]

1. 森崎菜穂, 山岡結衣, 溝口史剛 チャイルド・デス・レビュー～日本での実現に向けて～周産期医学. 2016(5)283-286
2. 森崎菜穂, 永田知映, 左合治彦, 齋藤滋. 日本人にとっての適切な妊娠中体重増加量の算出. 産婦人科の実際.
3. 森崎菜穂. 日本における出生体重低下の要因と対策を考える：複数のデータベース解析からのエビデンス. 日本周産期・新生児医学雑誌 第52巻5号
4. Fujiwara T*, Morisaki N, Honda Y, Sampei M, Tani Y. Chemicals, Nutrition, and Autism Spectrum Disorder: A Mini-Review. Front Neurosci. 2016 Apr 20;10:174.

[研究費]

公的研究費

厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業 臨床研究等 ICT 基盤構築研究事業 H28-ICT-一般-001）、研究分担者 森崎菜穂（班全体 9,700 千円「含、間接経費」）「周産期関連の医療データベースのリンケージの研究」

日本医療研究開発機構 成育疾患克服等総合研究事業 研究分担者 森崎菜穂（48,000 千円「間接経費」）「低出生体重児の発症機序及び長期予後の解明に関する研究」

ダノン学術研究助成金 研究代表者 森崎菜穂（2,000 千円）「母親の適切なタンパク質摂取が子どもの生活習慣予防に与える影響についての前向きコホート研究～幼児期の食習慣およびエピゲノムの2側面からの検討～」

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金・若手研究 B- 16K16631）、研究代表者 加藤承彦（1,040 千円「含、間接経費」）「保育園を通した親への子育て支援教室実施が子どもの発達に与える効果の検証」

[その他]

[教育活動]

森崎菜穂

- ・筑波大学医学部、日本周産期新生児学会にて疫学統計に関する教育セミナーの招待講演

[社会貢献]

森崎菜穂

- ・日本小児科学会 情報管理委員会委員・子どもの死亡検証制度委員
- ・日本 DOHaD 学会 実行委員
- ・国際誌のレビュー(Pediatrics, Obstetrics and Gynecology, Paediatric Perinatal Epidemiology, Journal of Epidemiology, Scientific Reports, PloS One, Pediatrics International)年間 10 本以上

加藤承彦

- ・国際学術誌 査読 2 編

[研究所運営への貢献]

森崎菜穂

- ・庶務係

加藤承彦

- ・倫理予備審査委員会社会医学部会 防災対策ワーキンググループ

